

「秩父木橋ものがたり」

(株)NJS日本住宅新聞社

北川 美代子

池袋から西武池袋線に乗って、およそ1時間半の旅程で到着する秩父。沿線に住む私には、身近で馴染み深い観光スポットです。近年は大ヒットアニメーション「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」の舞台になったことでも観光客が増加していて、西武線沿線の観光スポットを紹介する土屋太鳳さんも、楽しそうに長瀞の川下りやわらじトンカツを楽しんでいます。

そんな秩父には、日本に欧米の土木技術が輸入され始めた明治時代、木材と少量の鉄材で構成した近代木橋（木鉄混交橋）が多く架けられました。今回は木橋の研究者である私の友人・木下勝茂さんに貴重な資料をお借りして、アニメにも登場した秩父橋を中心に「秩父の木橋」についてお話をします。

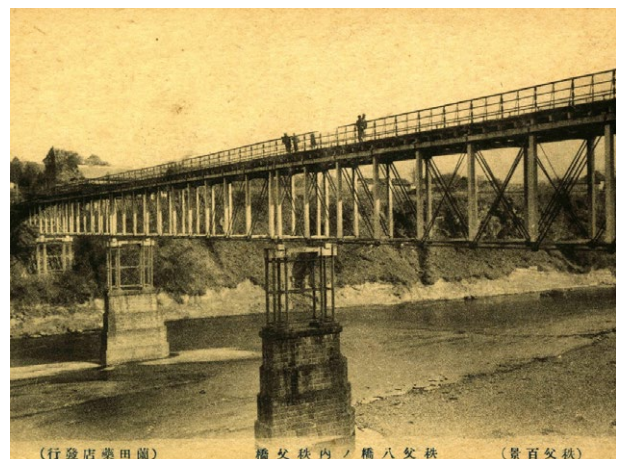


秩父橋銅版画（埼玉県立文書館蔵）

アニメに描かれている秩父橋（遊歩道）は2代目の橋ですが、初代の橋の橋脚は現在も2代目橋の下に残っています。この初代秩父橋は、明治18年（1885年）に国内4例目の木造トラス橋として完成しました。日本の木造トラス橋の歴史上ごく初期に建設されたもので、上路式プラットトラス橋としては日本初だったと推察されます。



秩父橋3代



秩父橋



親鼻橋



郷平橋



神庭橋



登龍橋

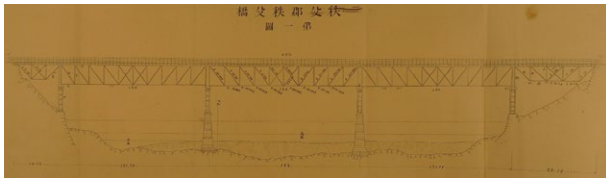
秩父橋の写真をご覧ください。なんと美しい橋ではありませんか。繊細で軽快な印象を受けますが、構造的に見ても非常に合理的な形式で作られています。木材という軽くて強い材料を主材料にして、橋全体の重量を抑える。重量を抑えることができれば部材を細くすることができ、軽快なデザインを生み出すことが可能になります。

秩父橋は主要な構造部材である上部橋脚、上弦材、垂直材、横桁、上梁から下地・仕上げ材であるタルキ、床板といった部材まで、木材で構成されています。資料によると上部橋脚、上弦材、垂直材はケヤキ、上梁はカラマツ、横桁、タルキ、床板はヒノキ、添え板はシオジと、それぞれの役割に適した材料が選ばれていました。

木材は秩父郡大滝村（現在の秩父市大滝）で伐り出し、大宮郷字竹の鼻（秩父市中村町）で乾燥させた記録が残っています。大滝で伐採した木材を丸太にして荒川を使って運び、広い河原がある竹の鼻で製材、乾燥を行い、乾燥後さらに荒川を下って秩父橋の現場で組み立てたのでしょう。

秩父では明治中期から昭和初期にかけて、「秩父百景」「秩父名勝」「秩父溪谷」と称した景勝地絵葉書が多数発行されました。初代秩父橋だけでなく、荒川橋、常盤橋、郷平橋、親鼻橋などの絵葉書も数種類確認されています。初代秩父橋については施工を請け負った会社（斎藤組）が今も存在していて、埼玉県立文書館には設計要旨だけでなく構造概要、図面、経費明細等の豊富な資料が保管されています。

木橋の寿命は15年から20年ですが、秩父橋は木橋としては驚異的に長い、46年間に亘って利用されました。



秩父橋立面図（埼玉県立文書館蔵）

蓄積された知識で適材適所に木材を採用したこと。橋板には松煙墨を塗って防虫、防腐性能を高め、橋板以外の木部にはすべて灰色のペンキで塗装するなど、木材の耐久性を向上させる様々な工夫や適切な管理・補修を行ったことが、46年間という長期使用を支えたと思われます。

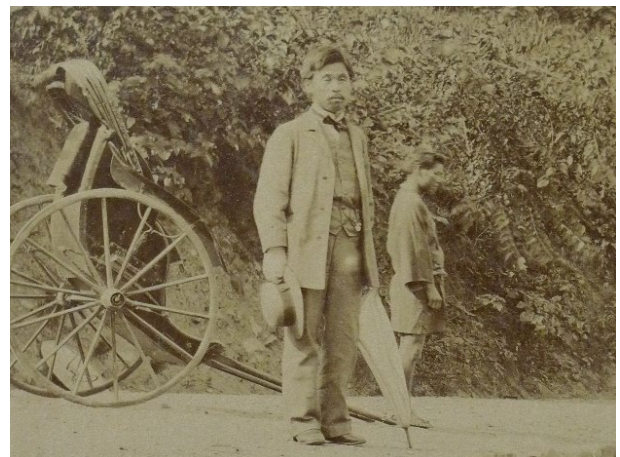
一般的に橋梁を架け替える際には、新しい橋の供用が始まると旧橋は撤去されてしまいます。初代秩父橋も数十メートル上流に2代目秩父橋が完成すると解体され、利用可能な材は売却されました。しかし2基の橋脚と2本の親柱は残され、現在は県指定の有形文化財に指定されています。

残念ながら橋そのものは現在残っていませんが、図面、材料明細が確認できることで復元が可能です。木橋は錦帯橋の例を見てもわかるように、観光における強力なアイコンになります。初代秩父橋の工事は埼玉県によって実施されましたが、資料から同工事の指揮を執ったのは、工部大学校卒業わずか1年目の佐藤成教技師であることがわかっています。彼は後に碓氷線の隧道工事を請け負っています。

こんなロマンティックなストーリーに彩られた秩父橋の復元、皆さんはいかが思われますか？荒川の渓谷にステキなデザインの木橋が架かったら、訪れてみたいですね！！

名目	材料	数量	長さ	巾	厚	分	量	価格	金額
橋脚	親柱	8	17	1.0	1.0	1.0	11.33		
橋脚	礎石	8	17	0.8	0.8	0.8	29.013		
橋脚	礎石	16	16	1.0	1.0	1.0	7.200		
橋脚	礎石	8	17	1.0	1.0	1.0	11.33		
橋脚	礎石	8	17	1.4	1.5	1.5	7.000		
橋脚	礎石	8	17	1.5	1.5	1.5	3.333		
橋脚	礎石	8	17	1.03	1.0	1.0	2.816		
橋脚	礎石	16	16	1.03	0.8	0.8	4.505		
橋脚	礎石	32	16	1.5	1.5	1.5	3.842		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	4.055		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	1.200		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	0.265		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	4.500		
橋脚	礎石	32	16	1.5	1.5	1.5	1.333		
橋脚	礎石	8	16	1.5	1.5	1.5	0.250		
橋脚	礎石	66	16	1.5	1.5	1.5	46.603		
橋脚	礎石	8	16	1.5	1.5	1.5	5.04		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	4.505		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	2.000		
橋脚	礎石	8	16	1.5	1.5	1.5	2.253		
橋脚	礎石	48	16	1.5	1.5	1.5	28.8		
橋脚	礎石	96	16	1.5	1.5	1.5	24.96		
橋脚	礎石	66	16	1.5	1.5	1.5	9.9		
橋脚	礎石	24	16	1.5	1.5	1.5	1.6		
橋脚	礎石	66	16	1.5	1.5	1.5	2.475		
橋脚	礎石	8	16	1.5	1.5	1.5	8.00		
橋脚	礎石	2	16	1.5	1.5	1.5	1.632		
橋脚	礎石	6	16	1.5	1.5	1.5	4.08		
橋脚	礎石	12	16	1.5	1.5	1.5	2.794		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	1.28		
橋脚	礎石	20	16	1.5	1.5	1.5	0.70		
橋脚	礎石	32	16	1.5	1.5	1.5	0.5552		
橋脚	礎石	6	16	1.5	1.5	1.5	0.5175		
橋脚	礎石	12	16	1.5	1.5	1.5	0.81		
橋脚	礎石	16	16	1.5	1.5	1.5	1.92		
橋脚	礎石	19	16	1.5	1.5	1.5	0.813		
橋脚	礎石	11.5	16	1.5	1.5	1.5	0.367		
橋脚	礎石	15.5	16	1.5	1.5	1.5	64.833		
橋脚	礎石	157	16	1.5	1.5	1.5	43.575		
橋脚	礎石	6	16	1.5	1.5	1.5	156.000		
橋脚	礎石						508.795		2,521.612
橋脚	礎石						192.24	0.65	124.956
橋脚	礎石						198.72	0.65	70.688
橋脚	礎石						683.64	0.65	444.966
橋脚	礎石						914.76	0.65	594.594
橋脚	礎石						43.20	0.65	28.080
橋脚	礎石						1546.44	0.70	1082.508
橋脚	礎石						1133.56	0.70	807.492
橋脚	礎石						413.64	0.70	289.548
橋脚	礎石						225.00	0.70	157.500
橋脚	礎石						217.68	0.70	151.356
橋脚	礎石						217.80	0.70	152.460
橋脚	礎石						19.32	0.70	13.664
橋脚	礎石						42.24	0.70	29.568
橋脚	礎石						232.48	0.70	176.736
橋脚	礎石						27.00	0.70	18.900
橋脚	礎石						55.80	0.70	60.600
橋脚	礎石						207.28	0.70	145.096

秩父橋経費明細（埼玉県立文書館蔵）

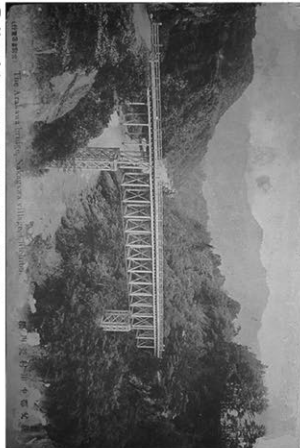


秩父橋工事中の佐藤成教（御曾孫蔵）

資料（写真含む）提供：木下勝茂氏
1971年メルボルン生まれ。建築家。池原義郎建築設計事務所などを経て、現在株式会社10architect取締役。初代秩父橋の美しさに衝撃を受けて以来、近代木橋の研究を始める。



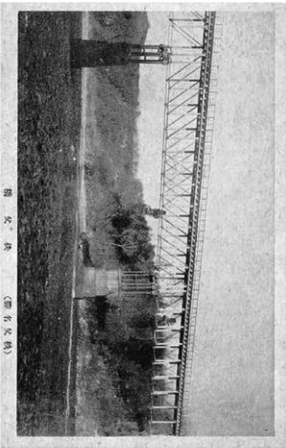
②八幡橋 3径間 木鉄混交 上路式トラス橋



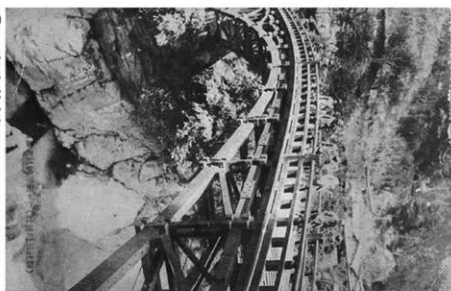
③荒川橋 3径間 木鉄混交 上路式トラス橋



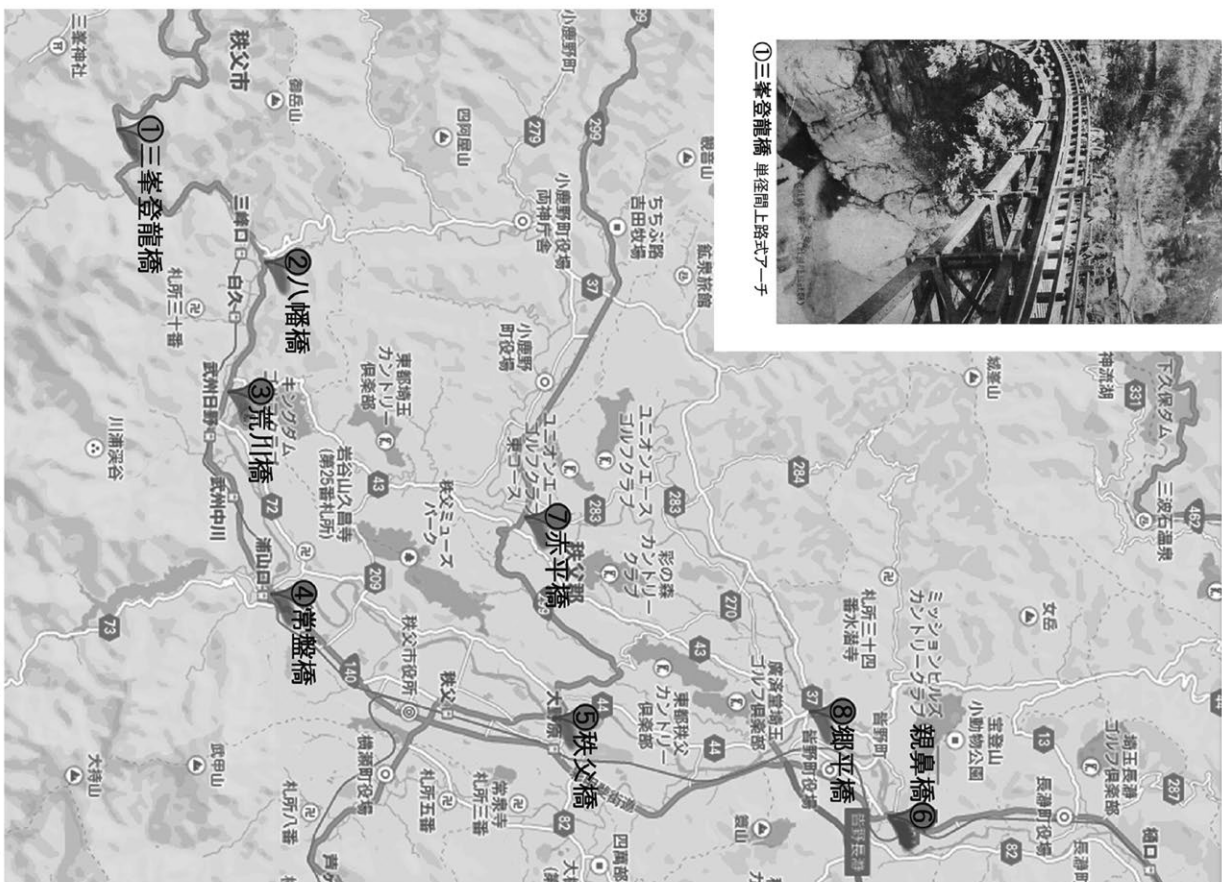
④常盤橋 2径間 木鉄混交 上路式トラス橋



⑤秩父橋 (明治18年) 5径間 木鉄混交 上路式トラス橋



①三峯登龍橋 単径間上路式アーチ



秩父地域の木橋分布図

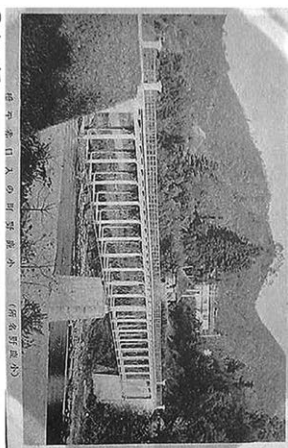
①～⑥は荒川及び支流 ⑦、⑧は赤平川に架かっている橋梁
 テレパライズ木橋研究会 木下 勝彦調べ (2014.05.20)



⑥-1 親鼻橋 初代 3径間 木鉄混交 上路式トラス橋



⑥-2 親鼻橋 2代 3径間 木鉄混交 下路式トラス橋



⑦赤平橋 2径間 木鉄混交 上路式トラス橋



⑧郷平橋 (明治19年) 2径間 木鉄混交 下路式トラス橋